

KAZUMASA OHIRA EXHIBITION KAZE KANGEN JONOKOSHI ARCHAEOLOGICAL SITES

大平和正展「風還元」野外プロジェクト／城之越遺跡



ごあいさつ
Greetings
吉川和義

「ずっとここにあったみたい」。来場者のほとんどがそう口にするほど、大平さんの作品は城之越遺跡に馴染んでいた。1カ月前には何もなかったこの空間に、とてつもない?! 労力と時間が費やされ、これらの巨大な作品群が運びこまれたことが分らないほどに…。

公開された当初、「日本最古の庭園」として一世を風靡した城之越遺跡だが、近年の来場者数は年間300人を割る。管理者として新たな活用を考えていた頃、大平さんと出会った。世間ではアート作品で地域おこしに取り組む事例が多く、ある意味安易な考えで大平さんに展示会のお願いをしたが、難色を示され「風還元シリーズ」や入道谷でのプロジェクトの説明を受け、自分の愚かさを噛みしめつつも、何度かお願いした記憶がある。

「城之越遺跡に新たな風を吹かせるよ!」。その言葉とともに、急速なピッチでプロジェクトが進みだしたのが、現地を見ていただいてからのことだ。大平さんの中で展示会のビジョンが出来、完全にスイッチが入った。企画画者が追い立てられるように、測量、配置、企画内容はもとより、リーフレットやポスター等広報物にも余念がなく、約1カ月間にも及ぶ搬入にも「大平イズム」が続いた。

オープンと同時に全国各地から来場者が詰めかけ、若いファミリーやカップル、三世代の家族連れ等、普段見ることのできない客層が、巨大彫刻の前に笑顔で話し、冒頭の言葉を発する。アンケート記入率は驚異の90%、感想の多さに満足度が窺える。あるアーティストからは「私もここでやりたい」との声もいただいた。

「敷地全体が一つの作品」だと大平さんは言う。「どのように見えるのか」、「どのような方が来て、どう感じるのか」、そして、「どう活かされていくのか」。

「新たな風を吹かせる」の言葉には、きっとこれらの光景が最初から見えていたのだろう。今回の展示会は、彫刻家大平和正の描いたとおり、様々な人々の想いを巻き込みながら、未来への在り方も含め、まさに「風に還った」のだと思う。

最後に、大平和正さんをはじめ、この展示会の開催に協力をいただいた皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

[公益財団法人伊賀市文化都市協会事務局長]

開催概要
Outlines

大平和正展「風還元」野外プロジェクト／城之越遺跡

[会期] 2020年10月2日—11月29日 9:00～16:30 月曜日・火曜日休館（祝日を除く）

- ・オートムナイトミュージアム 特別夜間開園
3日間限定ライトアップ 10月16日—18日 17:30～20:30
- ・特別講演「日本最古の庭～城之越遺跡」
講師：徳積 裕昌 [三重県埋蔵文化財センター] 10月18日 14:00～
- ・アーティストトーク「城之越遺跡は風に還ったか」 彫刻家 大平和正 11月3日 14:00～

[会場] 城之越遺跡 三重県伊賀市比土4724番地 Tel: 0595-36-0055
入園料 一般300円 高校生以下100円 ※未就学児無料

[主催] 公益財団法人伊賀市文化都市協会 www.bunto.com
〒518-0809 三重県伊賀市西明寺3240番地の2（伊賀市文化会館内）
Tel: 0595-22-0511 Fax: 0595-22-0512 E-mail: samazama@bunto.com

[後援] 三重県・伊賀市・伊賀市教育委員会・名張市教育委員会



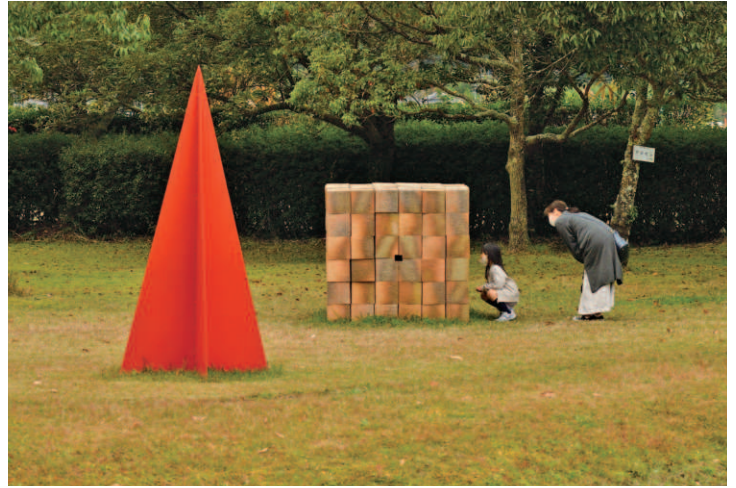
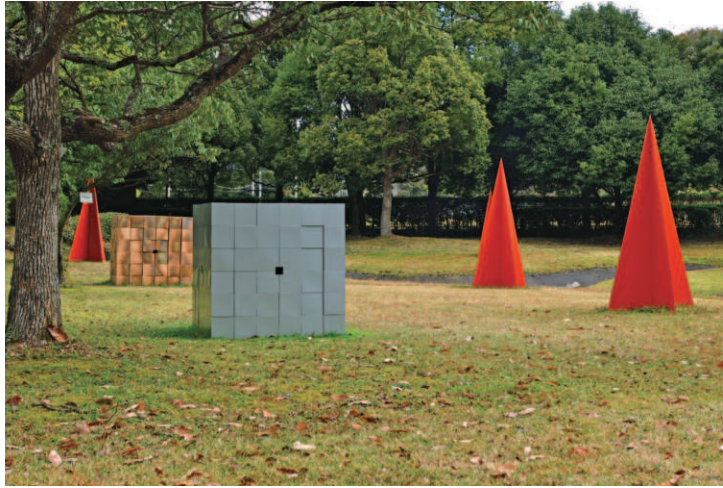
















作家プロフィール Artist Biography

大平和正
Kazumasa Ohira

- 1943 東京生まれ。
武蔵野美術大学彫刻科を卒業後、造園設計を手がける。
その一方で環境を意識した石、金属などによる彫刻を制作。
- 1974 制作の場を求めて移り住んだ伊賀で初めて土と出会い、陶による制作も始めて創作の領域を広める。彫刻を志した時から、その対象は野外だった。自然空間や庭園のような開かれた空間の中での「ものの在り様」を欧米の造形理念とは異なる、日本の風土に根ざした環境造化という視点で陶、水、金属、石、庭などによる幅広い造形活動を展開。
個展を中心に活動。
- 1999 名古屋市にある昭和初期の邸宅を庭園ごと使った大掛かりな個展「加藤邸の造化<風と水と光と>」展（インスタレーション）は大きな反響を呼んだ。
- 2001 「風還元（1991－2001）野外プロジェクト／伊賀・入道谷」展は、1991年から制作が開始され、2001年までの10年間でつくられた「風還元」シリーズ25点を、それらの想いを生んだ大地である入道谷の自然の中に解き放ち、谷全体を「風還元」という1つの作品として立ち上げんとする、個人の取組みとしては過つてない壮大な試みであった。

<大地＝土からカタチを立ち上げる>という「風還元」の理念のもと環境への根源的な問いかけや、そのスケールからも一作ごとに注目を集めている。
そして現在、「風還元」はその理念の必然から生まれたフォルムである「球体」という形を核にして表現されている。

〔主な作品・プロジェクト〕

- 1999 「加藤邸の造化<風と水と光と>」展（インスタレーション）／愛知県名古屋市長
- 2001 「風還元（1991－2001）野外プロジェクト／伊賀・入道谷」展／三重県伊賀市長
- 2004 「国際野外陶彫シンポジウム（韓国）」に招聘。50 tの土、ステンレス、水による作品を制作。
- 2008 2013年の完成を見据えたプロジェクト「風還元－巨大な土の球体φ 3.8 m」始動。
- 2010 自宅の裏山に6年がかりの独自の茶室「風気庵」完成。
- 「ギャラリー白川の造化／風還元（球体）」展／京都府京都市
- 2015 「風還元－巨大な土の球体φ 4.1 m」プロジェクト展
直径4.1 m、21 tの土の球体を三つの異環境―森の中、海辺、都会のビルの谷間に順次移動展示。
- 2016 「楽空間紙をん小西の造化Ⅰ」展（インスタレーション）／京都府京都市
- 2018 「風還元／茶碗」展“茶碗は彫刻だ”宣言／ギャラリー白川／京都府京都市
- 「楽空間紙をん小西の造化Ⅱ／風と水と光と」展（インスタレーション）／京都府京都市
- 2019 「風還元／球体」展／カナディアンファーム／長野県原村

<http://ohirakazumasa.web.fc2.co>

<https://www.facebook.com/Ohirabigproject>



「風還元－巨大な土の球体φ 4.1 m」プロジェクト

（左）長野県原村（中）京都府葛野浜（右）東京都中野区

作品リスト
List of Works



① 風遠元II / 1992 / 陶・水 / D100 × W35 × H35



② 風遠元III / 1992 / 鉄・水 / D75 × W350 × H75



③ 風遠元IV / 1992 / 陶・ステンレス・水 / D75 × W190 × H210



④ 風文風器 / 1992 / 陶・水 / φ 63 × H60



⑤ 風遠元VIII / 1994 / 陶・水 / D160 × W160 × H100



⑥ 風遠元VII / 1995 / 鉄・陶・水 / D24 × W250 × H15.5



⑦ 風遠元X / 1995 / 陶・水 / φ 360 × H75



⑧ 風遠元XI / 1995 / 陶・水・鉄 / D515 × W515 × H240



⑨ 風遠元XII / 1996 / 陶・ステンレス / D200 × W815 × H50



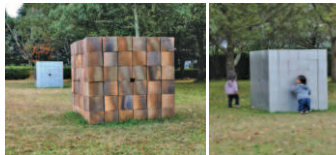
⑩ 白い風 / 1999 / ステンレス / D300 × W320 × H25



⑪ 風遠元XV III / 2001 / 陶・水 / φ 92 × H77



⑫ 風遠元XX / 2001 / 鉄・彩色 / D120 × W120 × H240 × 9 体

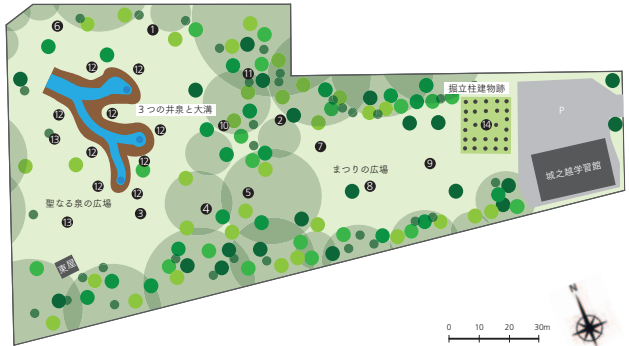


⑬ 風遠元XX / 2001 / 陶・ステンレス / D130 × W130 × H130 × 2 体



⑭ 風遠元XX IV / 2001 / ステンレス・アルミ彩色・木 / D500 × W500 × H400

作品配置図
Layout of Works



B
Culture
n
t
o

iga cultural city association
(公財) 伊賀市文化都市協会

大平和正展「風還元」野外プロジェクト／城之越遺跡

発行日：2021年2月1日／発行：公益財団法人伊賀市文化都市協会／撮影・カタログデザイン：海老江重光事務所